

フォトキナ・プレゼンテーション

2010年4月12日(月)

リッツカールトン 東京

ドイツ写真工業会

専務理事 クリスチャン・ミュラー リーカー

ご来席の皆さま、

本日初めて皆様にご挨拶させていただきます事を嬉しく思います。私は2010年1月1日、ドイツ写真工業会 専務理事を長年務め、皆様もご存知のライナー・シュミット氏の後任として専務理事に就任しました。ドイツ写真工業会はフォトキナの協賛団体として、ケルン見本市が開催する各国の記者会見に同席し、フォトキナの新コンセプトのみならず、全世界の写真・イメージング市場の最新データ及び動向についてご紹介させていただいております。

世界トップ見本市フォトキナは1950年の創設以来、常に「ベストブランド」の条件を満たしてきました。「ワールド・オブ・イメージング」として業界全体のマーケティング及び広報活動の主要を務め、見本市業界の世界ブランドへと発展してきました。フォトキナのように、業界の枠を超えるという評判を得ている見本市は世界でも僅かしかありません。フォトキナは活力と多様性に富む写真産業界の世界マーケットです。つまり、フォトキナは専門ユーザー向けの新製品が展示・発注されるグローバル・プラットフォームなのです。最初のチャートでは、フォトキナ・ブランドの発展の歴史が示されています。

では、今、我々は何を対象として話しているのでしょうか？

それは、約1280億ユーロの規模を持つ世界の写真・イメージング市場についてです。つまり、画像の取込み・処理を行う製品を対象として話しているのです。これらの製品のアプリケーションは個人向けであっても、専門家向けであっても非常に幅広く多岐に渡っています。ドイツ写真工業会のロゴには従来同様カメラを使用しています。それはカメラが今でも店舗のショーウィンドウや棚の前面に陳列される代表的商品だからです。

それでは、カメラ市場のデータをいくつかご紹介しましょう。

2009年、全世界で約1億3千万台のデジタルカメラが販売されました。2008年比で約マイナス7%となりました。

全世界で販売されたデジタルカメラの約9%は一眼レフカメラでした。

デジタルカメラの約70%は北米及びヨーロッパで販売されました。

次に西ヨーロッパのカメラ市場から、カメラ付携帯電話並びにカムコーダーに視野を広げて、「画像記録装置」全体を見てみましょう。画像記録装置(カメラ、カメラ付携帯電話、カムコーダー)の使用台数は全世界で27億台、ヨーロッパでは約6億9千万台に増加しています。これらの「画像記録装置」を活用して、個人あるいはプロユーザーが毎日、数十億枚に及ぶ静止画や動画を撮影しています。

西ヨーロッパでは2009年、約1億1600万台の画像記録装置が販売されました。

数十億回も撮影されたイメージが画像として出来上がるには、いわゆる「イメージング・ワークフロー」と総称される数々の製品が必要となります。この豊富な製品があるからこそ、写真産業が多様性を有する産業となっているのです。

フォトキナはイメージング・ワークフロー全体を網羅した見本市です。つまり、入力装置から記録装置、加工装置、出力装置、サービス、画像送信、更には周辺装置や消耗品に至るまで、全てが展示されています。

imaging is more – イメージングとは画像化はもとより、画像とのコミュニケーションをも意味するのです。

それでは、どれほど多様な製品並びに多面的機能があるのかを紹介しましょう。

最新のカメラは撮影場所のみならず、被写体をも記録することができます。また周辺には、他にどのような興味深いものがあるかも教えてくれます。さらには、画像をワイヤレスで瞬時に送信することも、またオンラインアルバムにアップロードし、そこから自動的に家族、友人、知人のデジタルフォトフレームに転送することもできます。もしカメラ自体がこれらの機能を有していない場合は、ワイヤレスあるいはGPS機能付きメモリーカードを使用すれば問題なくできます。あるいは、もし撮影した写真やビデオを撮影したすぐその場で複数の人々に見せたい場合、そしてもし所有するカメラの大画面ディスプレイが小さいと思われる場合には、カメラから直接これらの写真やビデオを投影する事もできます。

また、「撮影ユニットに機能転換したレンズ」という最先端技術も登場しています。これは、最適に組み合わせられたレンズ・センサー・プロセッサーを、カメラ本体にモジュール方式で搭載するという技術です。

このような技術を駆使する事で、どのような状況であっても、どのような光加減であっても、写真を上手に撮影できるようになりました。その上、最近のカメラは耐衝撃・耐水性の特徴を有し、さらにはほぼ無光状態であっても撮影できるようになっています。ISO感度のISO 102 400のカメラは暗視装置に相当する程です。

これまで写真の世界はほとんど二次元の世界でした。しかし新しい三次元技術が静止画及び動画にも使用され始めています。三次元画像を表示する機器はもはやカメラだけではありません。市場にはディスプレイ、テレビ、写真フレーム、プロジェクター、さらにプリントに至るまで、三次元画像効果をもたらす製品が多数販売されています。

またカメラは被写体を分析し、人物や氏名を記録し、さらに該当フォルダーにファイルする機能も有しています。つまり、撮影後の重要な処理もカメラの中で実施できるということです。

デジタル画像コミュニケーションが行われるのはもはやパソコン上だけではありません。今では、画像をオフィスや事務所から自宅の居間のテレビに送信する事も、あるいはデジタルフォトフレームやインターネットを介して、ベッド脇のナイトテーブルに転送する事もできます。

あるいは最新のフォトアルバム技術を考えてみてください。フォトアルバムが自らをクリエイトするのです。フォトアルバムを作るにはただ写真をフォルダーにファイルし、フォーマットとページ数を選択するだけで十分です。後は、マウスをクリックするだけでソフトウェアがフォトアルバムを自動的に作成してくれます。

このようにソフトウェアは画像制作、並びに画像コミュニケーションの主要ツールになっています。Iphone向けだけでも、写真を扱うアプリが80以上あります。

さらに撮影した写真の利用方法にも多種多様な選択肢があります。無数のツールと媒体の中からいくつかを選択すると、撮った写真に望み通りの効果を与える事ができます。例えば、ホームプリント用の用紙だけでも豊富な種類が出ており、用紙に応じて写真に異なる性格を与える事ができます。上質の光沢紙からノスタルジックなバライタ紙、手作り紙からテント地、あるいは上質印刷マット紙からバックライトフィルムまでと、多岐に渡ります。

消費者調査によれば、多くの人は家族、友人、知人との対面コミュニケーションを最も重要視しているとのことです。しかしグローバル社会では残念ながら対面コミュニケーションはいつも可能ではありません。しかし、写真であれば、どれだけ離れていようとビジュアル・コミュニケーションが可能になります。

以上、個人の様々な写真の活用事例でした。この個人利用にもまして、画像世界の重要性が如実に現れているのが産業、医療、学術、経済分野です。例えば、宇宙望遠鏡によって遠く離れた宇宙を眺めることも、研究者が写真撮影技術を駆使して無限の空間並びに小宇宙に突き進んで行くこともできます。あるいは医療分野であれば、画像診断システムによって分子構造の変化を特定することができます。その他、材料検査プロセス、ロジスティクス・コントロールシステム、光学検査プロセスなど、至る所で高度な専門画像技術が駆使されています。

ここでもう一度、写真とイメージング市場に話を戻しましょう。写真関連の製品は最も愛されている「技術玩具」と言えます。

ドイツ連邦統計局の調査によると、ドイツ100世帯のうち80世帯がアナログカメラを、73世帯がデジタルカメラを所有しています。

これを上回るのは電話(固定電話115及び携帯電話154台)とDVDプレイヤーだけです。

更に興味深いのはデジタルカメラの年齢別所有分布です。若い世代の場合、デジタルカメラを所有する人はアナログカメラの2倍に達しています。一方、50歳以上の場合になると、デジタルカメラはアナログカメラほど普及していないことが分かります。同様の傾向はデジタルカメラの関連商品、並びにオンライン・フォトサービスの利用においても見られます。

人間は現在の体験や出来事を記録しておきたい、美しい思い出を大切にしたい、あるいは誰かと分かち合いたいという願望を抱いています。それ故、写真を撮るという行為は人間の基本的欲求であると言えます。だから今、インターネット上の電子フォトアルバムやフォトコミュニティで写真が急増しているのです。

「百聞は一見に如かず」、あるいは「写真のパワー」、または「思い出はそれ以上のもの(Memories are more)」、「イメージングはそれ以上のもの(Imaging is more)」という言葉がよく使われます。これらは、人間の基本的な表現方法として、写真が如何に重要であることを示しています。

だからこそ、フォトキナではビジュアル・ギャラリーを設け、写真の世界に焦点をあてています。

現在の経済危機の中にあっても、写真・イメージング産業の主要製品群は好調な販売動向を示しており、業界は2010年のフォトキナ年を明るく展望しています。

記者の方々には、写真業界並びにフォトキナに対し、率直かつ正確な報道をよろしくお願ひする次第です。

皆様とケルンのフォトキナでお会いさせていただけるのを今から楽しみにしております。

ご静聴ありがとうございました。

お問合せ

ケルンメッセ株式会社

〒106-0045 東京都港区麻布十番 2-20-6 ジャノメ麻布十番ビル 7F

TEL: 03-5418-6245 FAX: 03-5418-6246

E-Mail: kmjpn@koelnmesse.jp <http://www.koelnmesse.jp>